

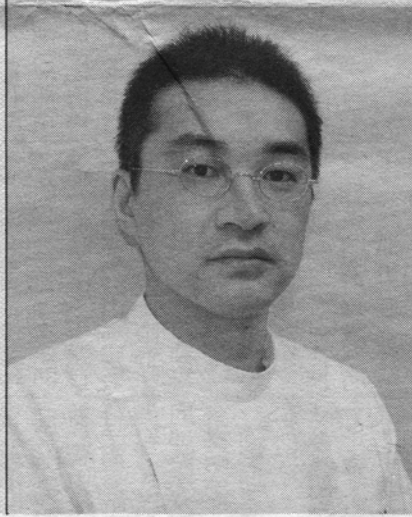
「必要な医療だけを的確に提供できれば、患者負担軽減につながる」。日帰り手術の普及・拡大を視野に、「入院期間短縮ノウハウ論



議」へ、十六年に研究会は発足した。診療報酬の『短期滞在手術基本料』は、点数が低く算定医療機関は少ないのが現状。会

第2回日本短期滞在外科手術研究会会長を務める

宮崎 恭介氏



では短期入院がもたらすメリットを集積し、国へ報酬アップを求めていく考えた。自身は、みやぎ外科・ヘルニアクリニック（札幌市中央区）を十五年四月に開設。以来、千百五十例余の日

帰リ手術を施行している。鼠径ヘルニアを中心に、下肢静脈瘤、痔核に特化し、「限られた時間内で質の高い手術と麻酔技術を磨けば、開業医レベルで対応可能」と強調する。

メリット集積、報酬アップを

札幌コンベンションセンターで五月二十七日に開く研究会テーマは、「日帰り・短期滞在手術のコツとピットフール」。

特別講演は、二千例以上の日帰り手術実績を持つ医療法人社団涼友会（東京）の執行友成理事長が「顧客満足度と日帰り手術」を語るほか、シンポジウム五題、一般演題十五題を企画。医師、看護師の参加を呼びかける。

昭和四十一年六月一日生まれ、函館市出身。聖マリアンナ医大平成三年卒。北大第二外科同門。